釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和５年（2023年）９月25日発行　VOL 26

誰一人取り残さない

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

最近、学校で仕事をしていると、「誰一人取り残さない学校」という言葉をよく耳にします。保護者や地域の皆さんは、聞いたことがあるでしょうか。

このようなことが言われるようになった所以は、「誰一人取り残さない」社会の実現が、ちょうど８年前の2015年９月25日に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の原則において示されたことによります。正確には、「no one will be left behind」と記され、誰一人取り残されない社会を実現するために、人間、さらには地球を守り、そのために地球全体で協力し合うことが明記されました。

そして、中央教育審議会は、持続可能な開発目標（SDGs）の原則を踏まえ、2021年１月26日に答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」を示しました。本答申には、「誰一人取り残すことのない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、2020年代を通じて目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」と名付けること、また、「『誰一人取り残さない』ことを学校教育の役割として認識しましましょう」ということが謳われています。「誰一人取り残さない学校」をつくっていくためにはどうしたらよいのでしょうか。

軽井沢風越学園校長の岩瀬直樹氏は「『誰一人取り残さない学校』のためには、自分たちにとって居心地のよいコミュニティを、子ども自ら『つくり手』となってつくることから始めたい」と述べています。そして、この問いの答えを導き出すために、「そもそも学級とはどのようなコミュニティを目指すのか」から考え始めます。そして、「学級はインクルージブなコミュニティ（いろいろな児童・生徒一人一人が尊重され、包摂される民主的なコミュニティ）になることを目指したい」として、子どもたち自身がそのコミュニティの「つくり手」になっていくための各種の取組を始めていきます。

８日（金）に、「北中学校音楽祭（ＫＭＦ）」が行われました。全学級が１学期から練習してきた課題曲の合唱を披露しました。最後には全校生徒による全校合唱が行われ、会場は感動に包まれました。私も感動を覚えた一人でしたが、何に感動したのか振り返ってみると、音程や各パートのバランス、適切な速さやリズム、フレーズを意識したまとまりのある歌声、美しい響きを出す発声なども、その要因ですが、それ以上に、生徒たち一人一人の素敵な表情が見えたり、心と心のつながりが実感できたりしたからだと思いました。

ＫＭＦに取り組むに当たり、各学級ではスローガン等を考えていました。そこには、「金賞を獲る」や「目指せ、最優秀賞」という内容ではなく、「一人一人の絆を深めよう」、「みんなで全力を尽くそう」、「一人一人の思いを大切にしよう」などの内容が示されていました。ＫＭＦの取組を通して、各学級はインクルーシブなコミュニティとなり、生徒たちはその創り手となっていたのだと思います。ＫＭＦの成果を生かし、北中学校をこれまで以上に「誰一人取り残さない学校」にしていきたいですね。